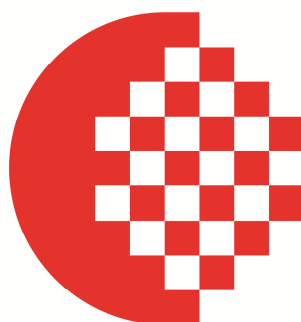


**令和2年度  
ミュージアム・エデュケーション研修  
(後半日程)**

**テキスト・資料集**



**文化庁**

Agency for Cultural Affairs,  
Government of Japan

主催：文化庁  
共催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都美術館  
葛飾区郷土と天文の博物館  
日程：前半／令和2年10月7日（水）～9日（金）  
後半／令和3年2月8日（月）～9日（火）  
会場：前半／東京都美術館 アートスタディールーム ほか  
後半／葛飾区郷土と天文の博物館 講堂 ほか

令和3年2月 文化庁

# 目 次

- 1頁～ オープニング・セッション 前半日程の振り返り
- 3頁～ ⑪中間課題成果発表
- 4頁～ ⑫事例紹介 研修受講後の取り組みと展示室における学び  
展示室における豊かな学びをめざして
- 6頁～ ⑬事例紹介 葛飾区郷土と天文の博物館の展示室における学び
- 9頁～ ⑭講義 博物館における学びのデザイン
- 11頁～ ⑮グループワーク・ディスカッション 博物館における学びの振り返り
- 13頁～ ⑯講義 ミュージアム・エデュケーションの現場から
- 14頁～ ⑰クロージング・セッション

オープニング・セッション（8日／10:00～10:20）

## 前半日程の振り返り

進行：企画運営会議委員  
千葉県立中央博物館上席研究員  
林 浩 二

事前に「自分のこたえ」を記入しておいてください。

- ・a～dの役割を決めます。  
（中間課題発表班分け表で自分がa～dのいずれなのか確認ください。）
- ・冒頭に一人30秒ずつ自己紹介。
- ・aが1番だけ、bが2番だけ、cが3番だけ、dが4番だけをこたえます。「こたえ」を読み上げて、1分以内で説明してください  
（こたえる人以外は、相手の「名前・こたえ」を記録します）  
（3人のグループでは、どなたかが4番をこたえてください）

ふりかえり項目	自分のこたえ	相手の名前	相手のこたえ
1. 前半日程で一番記憶に残っていることは何ですか？			
2. 研修(前半日程)参加後に自分が変わったと思う点は何ですか？			
3. 研修(前半日程)で学んだ事を同僚に伝える(共有する)機会がありましたか？ その際に、どんな反応がありましたか？			
4. 研修(前半日程)参加後、ご所属の館で何か変化したことはありましたか？			

⑪課題発表（8日／10:20～12:00）

## 中間課題成果発表

進行：企画運営会議委員  
神奈川大学非常勤講師  
植 田 育 男

⑫事例紹介【研修受講後の取り組みと展示室における学び】（8日／13:00～14:15）

展示室における豊かな学びをめざして

講師：企画運営会議委員  
徳島県立近代美術館学芸交流課係長  
亀井幸子

1. ミュージアムエデュケーター研修（2011年 第1回）受講後の取り組み

（1）研修から得た課題「就学前の子どもたち、高齢者、外国人、様々な障がいのある人と美術館を結びつけていくこと」と向き合っ

（2）保育所との連携事業とユニバーサルミュージアム事業の取り組み

2. 展示室での豊かな学びを目指して（保育所との連携事業から）

（1）家庭や保育所で美術館見学に対する「わくわく」をつくる

- ・出前授業や事前学習の提案（アートカードやワークシートなどで作品に親しむ）
- ・「近代美術館のうた」と「お約束そんぐ」

（2）美術館内での取り組み

展示室での活動

- ・マナーの確認（おやくそくえほんや紙芝居）
- ・五感を働かせるウォーミングアップ（好きな果物や動物を思いうかべる）
- ・鑑賞プログラムの体験（いろいろな鑑賞の楽しみ方を提案）
- ・鑑賞支援教材の活用（主体的に作品と向き合ってもらうために）  
〔ここ見てマット、子どもたちのつぶやきパネル、音声ガイド、触図など〕
- ・体験的プログラム（作品を味わい、深く感じ取ることにつながる仕掛けや場）
- ・サポーターによる「遠足見守り事業」

アトリエでの活動

- ・鑑賞前や鑑賞後にアトリエやロビーで活動  
（展示作品に関連した素材に親しんだり、技法の体験をしたりする。）

（3）美術館と保育所・家庭をつなぐ取り組み

- ・事後学習に役立つワークシート等の配布
- ・鑑賞した作品の素材や技法を活かした造形活動
- ・だれでもが参加できるワークショップや鑑賞会の開催

### 3. 「みんなが安心して楽しめる美術館」を目指して

- ・ 来館者のニーズに寄り添うことで、安心して過ごすことができる美術館へ  
（情報保障や設備の充実、様々な鑑賞スタイルの提案など）
- ・ 来館者のニーズや特性（障がいを含む）をプラスとして捉えることで広がる鑑賞
- ・ 様々な興味・関心のある人と美術館をつなぐことで広がる「みんな」

配布資料 「エデュカーレ 2019 年 5 月号抜粋」・鑑賞シート（4 種類）

「とくしま近美のユニバーサル事業 2019 話せば広がった鑑賞物語」

Web サイトの紹介

「アートの日 保育所（園）・幼稚園・認定こども園と美術館の連携事業」

<https://art.bunmori.tokushima.jp/artnohi/>

### ⑬事例紹介（8日／14:25～14:55）

## 葛飾区郷土と天文の博物館の展示室における学び

講師：葛飾区郷土と天文の博物館学芸員  
小 峰 園 子

### はじめに

葛飾区郷土と天文の博物館とは・・・

葛飾区郷土と天文の博物館は「葛飾区」の自然と人間の歴史を学ぶ郷土資料館とプラネタリウムを併せ持った博物館。葛飾区教育委員会、生涯学習課管轄の教育施設

### ①博物館の目的

区民の郷土愛を培い、天文への理解を深め、もって教育、学術及び文化の発展に寄与する。  
→この場所がどのように成り立ってきたのかを、この地域の特徴的な歴史的、文化的な事象とともに紹介していく

### ②博物館の施設概要

開館年月日：平成3年7月

博物館単独施設

延べ床面積：4993㎡地上5階建て

地下1階【収蔵庫／特別収蔵庫】

1階：体験学習室／講堂／事務室／収蔵庫

2階：常設展示室（郷土展示室）

3階：常設展示室（天文展示室）／プラネタリウム

5階：太陽望遠鏡／天体観測室

### ③職員に関して

職員数：全22名（常勤：10名、会計任用制度職員・再任用：12名）

専門職学芸系職員（天文・考古・埋蔵文化財・文化財・歴史・民俗・情報・学校見学担当）16名

事務職員（葛飾区職員）6名

葛飾区営（自治体直営型）…博物館長事務系係長職

博物館設備管理は民間企業が委託を受けている。

平成24年より文化財部局が合併（埋蔵文化財、文化財担当者5名が異動）

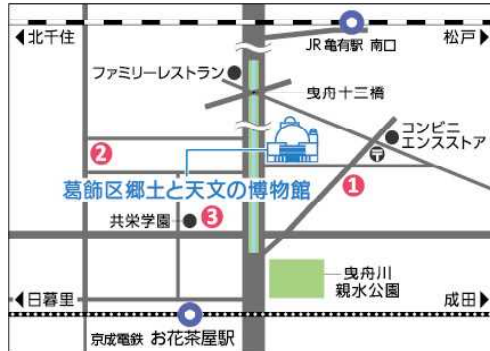


#### ④展示資料、収蔵資料数に関して

所蔵資料数・・・約30,000点

#### ⑤博物館交通案内

##### 【交通案内】



##### 【電車】

京成電鉄「お花茶屋」駅から徒歩8分  
JR常磐線「亀有」駅から徒歩25分

##### 【バス】

- ① レインボーかつしか(有71・有72系統)  
又は京成タウンバス(有70系統)で  
「白鳥わかば公園」バス停下車 徒歩3分  
有71 金町駅南口～亀有駅南口～ウエルピアかつしか  
有72 亀有駅南口～ウエルピアかつしか  
有70 金町駅南口～亀有駅南口～ウエルピアかつしか 又は タウンバス車庫
- ② 京成タウンバス(有57系統)で「上千葉小学校」バス停下車 徒歩5分
- ③ 京成タウンバス(有57系統)で「共栄学園」バス停下車 徒歩5分  
有57 亀有駅南口～葛飾区役所 又は タウンバス車庫

#### ⑥博物館の展示案内

郷土史分野・・・飾の文化遺産や資料をもとに自然、生活、文化、産業の移り変わりを学んでもらう

天文分野・・・今いるこの地球が宇宙の中に位置し、その宇宙がどのように成り立っているのかを学んでもらう

#### ⑦郷土分野 常設展示室のテーマについて

葛飾区郷土と天文の博物館常設展示は、区の歴史を編年で追い、それぞれの時代の中で葛飾区の特徴を学ぶことのできるテーマをちりばめた展示となっている。

古代から近現代までの歴史を追う中で、葛飾区の特徴である「水・低地・都市近郊といった3つのテーマをもとに、葛飾という地域に生きた人々の生活や文化が、どのように変化し今に至るのかを考えてもらうことが目的

#### ⑧地域博物館としての特色

体験・体感を通して、地域の歴史や文化を学ぶ

他地域との差別化、設備や区民、お客様のニーズ

『葛飾区郷土と天文の博物館だからこそできること』を検討

#### ⑨体験学習事業

この場所がどのように成り立ってきたのかを、この地域の特徴的な歴史的、文化的な事象を体験を通して学んでいく。

例えば

考古学分野・・・飾区内の遺跡について、広く周知するために、拓本教室やフィールドワークを実施している。

民俗学分野・・・博物館に収蔵されている資料を用いて米作りや野菜作り、酒作り、川漁を学ぶ体験を行っている。

#### ⑩現在当博物館の置かれている状況と重点事業

- (1) 自治体（行政）との関連
- (2) 文化財行政と保護事業の観点
- (3) 教育施設としての教育普及事業の拡充
- (4) 地域の歴史や文化を後世に伝え継いでいくための保護・保存事業
- (5) 地域歴史や文化に関する学術的研究の拡充

#### ⑪まとめ

地域社会と博物館が連携（協力）して、区民【市民】とともに活動を行う博物館を目指す

- ボランティア組織の育成
- 他教育組織との連携（学校も含む）
- 地域社会（町内会・商店街）との協働

⑭講義 (8日/15:05~16:10)

## 博物館における学びのデザイン

講師：企画運営会議委員  
東京大学大学院客員研究員  
佐藤 優香

### 1) 博物館における経験 …来館者の記憶と期待

来館者は博物館から何を持ち帰るのか

子どものころの博物館体験はどのように記憶されているのか

ワークショップ「記憶の中の博物館」からの考察/記憶されること/館種

による違い/あれこれまじりあった思い出/人との関わり

来館者は博物館に何を期待しているのか

子どもワークシートのアンケートからの考察

親の関わり方/親の期待

展示物をきっかけにして親子でやりとりしてたのしみたい

→記憶に残るのも期待されているのもコミュニケーション

### 2) さまざまな来館者 …対象にあわせたデザイン

来館者のレイヤー

利用深度は人それぞれ/自分なりに楽しみたい来館者

知っている、一度行く、再訪する、積極的に活用する、企画に入り込む…

→利用者のことをイメージし対象にあったデザインが必要

### 3) 経験をデザインする …問題を解決するツールのデザイン

ツールは何の役に立つのか

ツールに経験を埋め込む/問題点を掘り起こす

ツールによって解決する誤解と混乱、

→ツールを用意することは来館者の経験をデザインすること

### 4) プログラムデザインの方法 …デザインの考え方

行為をうながすツールの開発

ひとつのキット利用に用意するさまざまな関わり/行為を誘発する道具/

アイテム間のリンク／関わりの深度／自分との関わりの発見  
プログラムデザインの要素  
コンセプトメイキング、空間、活動、道具、コミュニティ  
活動の4つのフェーズ／  
→デザインの要素を整理して考える  
→利用の風景を思い浮かべながらデザインしていく  
物語として持ち帰るために  
流れとして受け取る展示体験／えらび・つなぐデザイン  
→ツールが物語化を助ける

**5) プログラムの実施** …企画を実現するために  
実現のための戦略  
位置づけと意図／仲間と予算の確保  
アートディレクション  
→ひとつずつできることから

⑮グループワーク・ディスカッション（8日／16:10～17:40）

博物館における学びの振り返り

進行：企画運営会議委員  
ベルナール・ビュフェ美術館学芸員  
井島真知  
同：企画運営会議委員  
東京大学大学院情報学環客員研究員  
佐藤優香

ミュージアムにおける「学びのプログラム」の開発について議論します。  
参集による実施の場合は、葛飾区郷土と天文の博物館の常設展示のツールをチームで開発し、それをお互いにやってみて議論します。オンラインによる実施の場合は、各自が課題をやっておき、その経験をもとに議論を行います。

	参集の場合	オンラインの場合
ツールの開発と体験	<p>【2/8, 9】</p> <p>グループで展示室で使用するツールを開発する</p> <p>↓</p> <p>他のグループのも合わせて、作成されたすべてのプログラムを展示室で体験する</p>	<p>【課題】</p> <p>各自でオンラインのプログラムを体験する</p> <p>↓</p> <p>体験について、ワークシートを記入する</p>
ディスカッション	<p>【2/9】</p> <p>ツール1つずつについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体験して感じたことを共有</li> <li>・ 開発したグループによる説明全体について</li> <li>・ 展示室での学びを促すツールをつくる際に留意することなど、展示室におけるについてディスカッション</li> </ul>	<p>【2/8】</p> <p>4-5名のグループごとに</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ワークシートをもとに、どのようにして体験し、どのようなことを感じたのかを共有</li> </ul> <p>（1プログラムにつき10分）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4つのプログラムから1つ選んで、利用者の学びを促すための改善案を検討（10分）</li> </ul> <p>受講生全体で</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ プログラムの課題と改善案をプレゼンテーション</li> </ul> <p>（1グループ3分）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全体でのディスカッション</li> </ul>

オンライン開催の場合は、オンラインのプログラムをもとに議論しますが、ミュージアムの学びにおいて考慮すること、大切にすること、プログラム開発における利用者への配慮など、ディスカッションでは展示室のツールにも通じる「学びのプログラム」開発への考え方について考えます。

⑩講義 (9日／9:30～10:45)

## ミュージアム・エデュケーションの現場から

講師：国立歴史民俗博物館客員教授  
三木美裕

今日は、研修に参加された皆さん、運営委員と文化庁職員の皆さんの顔写真を机の上において話をします。

もし、その前に時間があれば、添付のエッセイと、以下のギャラリートัวร์（全体で9分、特に後半部）をご覧ください。当日は話のなかでも取りあげるつもりです。

[オンラインギャラリートัวร์] 東京国立博物館

副館長・井上洋一が語る、土偶からひもとく、時代を生き抜くヒント

<https://www.youtube.com/watch?v=Ef3jHh7Zdjs&list=PLneMG2nfDCsGPw6ZzItudpwY5se3gFOE3&index=5&t=0s>

三木美裕（みきよしひろ）

略歴

ボストンの美術博物館でミュージアム・エデュケーションの研修を受け、その後スタッフとして5年過ごす。シアトル美術館の教育部主任、ロサンゼルス全米日系人博物館の教育部長を経て、九州国立博物館の学芸部企画課長。その後カナダ国立歴史博物館で日本特別展覧会、2011年から国立歴史民俗博物館に所属し海外事業を担当している。

現在はイギリスを中心に欧州の美術博物館で、現地の日本コレクションを活用し、展覧会や教育プログラムを開発するプロジェクトに従事。ウェールズ国立博物館、グラスゴー博物館機構、ダラム大学東洋博物館でゲスト・キュレーターを務める。サンフランシスコ在住。

⑰クロージング・セッション（9日／10:45～12:15）

進行：企画運営会議委員  
東京大学大学院客員研究員

佐藤優香

同：企画運営会議委員

ハンズ・オン プランニング代表

染川香澄